

福岡

福祉活動専門員の

ま な こ

社協活動前進のために

No. 10 昭和54年6月発行 福岡県専門員連絡会 まなこ編集委員会 印刷 福岡コロニー

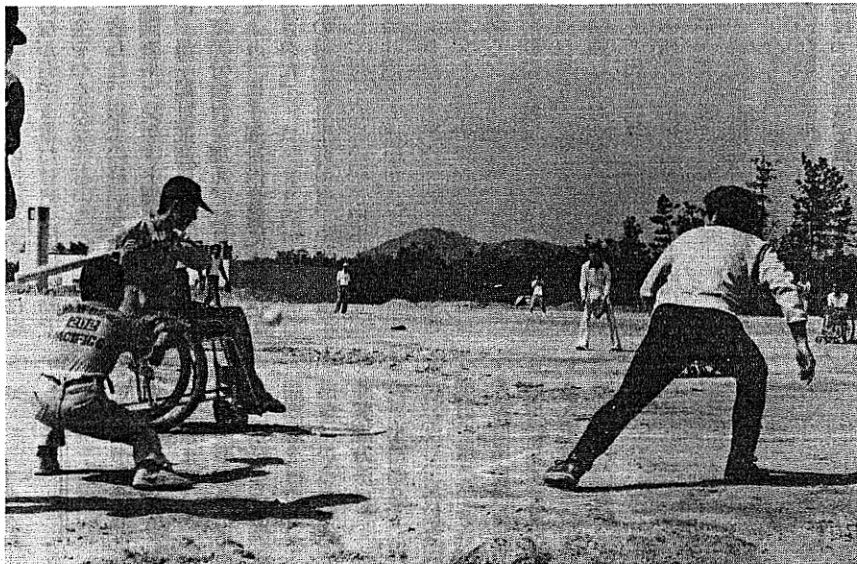
親の会の組織化に思う

本市では福祉の谷間におかれている
心身障害児親の会を、早く組織化せね
ばとあせりながら、ようやく五十二年

二月六日発足をみた。最初の呼びかけ
で集まったのは三名。これではどうし
ようもない。その原因を調べてみると
また一べん

の調査のた
めの呼びだ
しだろうと
いわれてい
た。

車いすも一緒にソフトボール（福岡コロニー）



そこで集
まった人の
名前を再度
呼び出し、
一応、会の
発足ができ
た。事業計
画をたてた
ものの、症
状の程度が
色々に分か
れ、意見集
約がむつか
しい。とに
かく親の集
いをもち、
昼食でも一
緒に食べな
がら、和や
かに語り合
えば、直ち

に障害の程度を知ることができ、励み
になるという実感を持たせることが大
切である。そこから毎月の定例会が始
まった。

会に出席すると親の会を待ち望んで
いたという声相次ぎ、相談しように
もするところがなく、親たちの喜びが
うかがわれた。同会は運動方針として
(一)在宅児通園施設の早期開園、(二)精薄
児に対する学級の改善等、項目を決め
今後各方面に働きかけることになった。
このほか就学・医療・社会復帰問題
など、共通の悩みについて意見交換す
るとともに、先進地の会と交流などを
深め、少しでも苦悩を解消していくこ
とにしている。当市で療育手帳をもっ
ているのは十八人だが、潜在児は調査
によると二倍はいるようだ。同会では
一般の人たちに理解を求めるとともに、
親の会々員が加入促進を呼びかけてい
る。なお同会の一歩の楽しみは、親子
ともどものバスハイクとクリスマスパ
ーティーである。きれいに飾り付けら
れた部屋に会員と子供が集い、ボラン
ティアの歌唱、ゲーム指導、目の不自
由な人の尺八に合わせた「ひえつきの
うた」等に楽しいクリスマスを過ごし
た。今後とも同会がたて横の連帯感を
深めて、一層強力に推進していくこと
を願うものである。

(豊前市社協 緒方信夫)



エンジン始動

母子福祉推進員

若年母子世帯の福祉をいかに高めるか、これは全社協の大きな問題でもありません。

我町の社協・民協においてもこの問題を五十三年度の課題として、度重なる協議の結果、寡婦会化している現在の母子会を

し、日陰に取り残され本当に困っている若年母子世帯を陽の当たる場所へ誘導する。そのためには、行政や社協・民協が手を取りあい、さらに母子福祉推進員を設定して問題解決に当たるべきであるとの結論に達した。

さっそく社協と民協が音頭取りとなって、町内有志による母子福祉推進員準備委員会が開催され、度重なる会議の結果、母子福祉推薦委員会が構成された。地域的に信望がありボランティア精神の豊富な人、親身になって人の御世話ができて他人の秘密を厳守できる人、家庭的にも円満で行動力のある人等が選出基準となつて、十五名の推進員が選出された。この時点になって、微力ながら会の立て直しの為に活動を続けてきた町母子会も、歴代の母子会長を含めて役員会を開き、現在の活動

に反省と評価を加え、今後のあり方を検討し、協賛団体の援護をありがたく受けながらできるだけ自主的に活動できる会をつくらう、ということで見解が一致した。以上の経過をふまえて、実態調査やアンケート調査の結果を参考に、母子福祉推進員規則、その他について充分検討を加え、二日後に社協会長より、母子福祉推進員に委嘱状が交付された。

この母子福祉推進員は、民生委員に協力し、母子家庭の相談相手となり、行政や社協とも連絡を密にし、少しでも問題解決の方向へ導びこうという趣旨で発足したものであり、女性でなければ解らない問題など、きめの細かい活動が期待されています。その為には推進員自身も、母子家庭問題について充分勉強しておく必要があり、機会をとらえて民生委員・母子福祉推進員合同での研究会や、講習会等も実施したいと思つています。

この母子福祉推進員の発足で、町母子福祉会も強い味方ができたと、会の充実にむかつて歩き始めました。母子問題については、我町でも他市町村と同様たくさん問題が提起されることと思つますが、推進員もエンジンを始動し、ただ今暖気運転中ですので、小生も、先輩専門員諸兄のご指導をいただきながら、地域福祉向上に努めたいと思つています。

(須恵町社協 田ノ口利治)

お年寄りに好評の フトン乾燥事業

行橋市社会福祉協議会では、五十二年十二月より、フトン乾燥事業を行なっています。

この事業を始めた動機は、老人家庭、身障家庭などの生活環境を整備し、健康増進をはかり、あわせて、地域連帯感をはかろうと始めたものです。

◆実施方法

五十台のフトン乾燥機を市内九校区に分配し、各校区内の婦人会員・民生委員・ボランティアの協力を得て、対象家庭に貸付をして、利用していただいています。又、ねたきり老人などで本人で取りあつかいが、困難な場合は、婦人会員などが、行なっている。

◆対象家庭

ねたきり老人家庭。老人給食を、うけている家庭。身障家庭にあって、平素環境の整備が、できない家庭。以上の他、この事業を実施することが必要と認められる家庭。

◆対象者の反応及び感想

この事業をしてから、半年あまりで、特に表に出る程の反応は、少ないが、使用された方々からは、ふとんを外に干さなくても良いので、便利ですとか、寝る前に一時間くらい使用すると、ふとんが暖かくなり非常に寝やすくなる等、好評である。

◆活動をした所見

対象家庭と、民生委員・婦人会員及びボランティアの方々との交流が、今まで以上に親密になり、連帯感がみえてきた。

◆今後の課題

この事業は、ややもすれば、対象家庭の中をのぞく、つまり、プライバシーな面まで世話をする事になるので、当初のうちは消極的になりやすい面があるが、機械の利便さや、重玉が浸透していくにつれて、この不安も次第に、取り除かれていくのではないかと思われる。又、この事業を通じての地域連帯感の、向場に注目している。



★

ふろしから浴槽まで
福祉機器の展示会

★

飯塚市社協では、初めての企画として、昨年末の十二月十五日から二十日まで六日間、市内中心街のスーパー、ジャスコ飯塚店三階催し会場において「福祉機器展」を開催した。

展示品は「スプーンから浴槽まで」とキャッチフレーズをつけたように、身障者のために考案された食器類から杖・車イス・ベッド・床ずれ予防のマット・シーツなどの介護用品を、福祉関係機具を製作販売している会社二社に出展を依頼。耳の遠い人のための電話機（シルバーホーン）、一人ぐらし老人等に便利な電話機（あんしん）を、飯塚電話局に出展依頼。一般書店では手に入りにくい福祉関係書籍を、県社協及び保健関係図書出版社に出展依頼。このほかボランティア活動を紹介する声のテープ、点訳本をボランティア団体に出版依頼し、これらの展示と、参観者の利便も考え即売も行った。また期間中、昼休み時に十六ミリ映画「ねたきり老人の介護」を上映、日曜日には老人・身障・母子・年金の各相談コーナー、手話や点字の実技紹介などもあわせて実施した。

この展示会開催の契機となったのは福祉の進展にともない、身障者やねたきり老人等のために福祉機具の開発がさかんに行なわれているが、このよう



いうことであった。また昨年秋に開催した「ねたきり老人の介護講習会」では、講師が紹介した便利な介護用品の入手先等にたくさんの質問が寄せられたり、福祉に関係していると自認しているわれわれが存外に知らないこともあって、本会関係者にも認識を深めてほしいと開催を思い立った。

期間中の入場者は七百名、市内の福祉関係者の入場が意外に少く、入場者

もこの展示会を見るためにやって来た人がほとんどで、通りがかりにフラーリと立寄る人が少なく、「どうぞごらん下さい」というよびかけに大半の買物客は「関心なし」といった表情。車イスや杖でやって来た五人ほどのグループの一人は本を数千円分買いかんていたが「みんな一線上にあるのにナー」とポツリ。自分とは無縁と考えているのか、福祉アレルギーなのか、無関心の人が多かった。しかし松葉杖のおばあさんに嫁らしい主婦と孫がつきいて、思案の末車イスを注文していく姿や、係員がたじろぐほど熱心に質問してい

先日のこと、本会にある電話があった。電話の主は、まず電話を受けた先輩職員氏にまくしたてているらしい。内容は小生の担当に係ることとて、電話がまわってきた。要旨は、当方発行のパンフに引用した一行をとらえ、社会福祉協議会とはそんなことを言う団体ですかとしくつくつめよる。論旨や口調からして相当の教養もある人らしい。「一行をつかまえそんなことをいわれども。当方はこうした考えで、あの一文を引用したのだ。社協はこの考えをおしつけるものではない。引用文の全体をもっと読んでほしい」、声高にしばしやりとりの末、そういう趣旨ならわからな

く人たちの姿をみるとこの展示会が福祉の情報の一端を提供し得たという感じを持つことができた。

しかしこの展示会を開催して反省として残ったものは、(一)一般市民には「福祉機器展」といったタイトル自体が耳なれないものであった。(二)開催時期が年末であわただしくフラーリと立寄る雰囲気ではなかった。(三)在宅の生活補助具展といった性格を正面に出しPRすべきであった。ということなどであるが、本会としては初めての事業であっただけにいろいろなおも教えられた。

(飯塚市社協 石上淳裕)

最後に名前をたずねるとやんわりと逃げられた。様子を聞いた事務局内では「最初に名前を聞けばよかった。いろんな見方もあるものだ。名前も名のらぬ者に応答する必要はない」などなど。電話がまわってきたときそのタイミングをのがしてしまったのである。いやはや「社協」というところもいろいろありますね。

非常に事務的に答えていると寄付の申し出だったり、ボランティア希望者だったりするので。後になって、もっと適切な応答もうかんだが、今後、慎重を期さねばという反省と、そこまです真剣に読んでくれた人もあると、多少の満足も残った。

(一)

ひ・と・り・じ・と



伝承の遊び 復活の記録

もぐら打

正月の十四日は、昔から「十四日のもぐら打」と、繰返し大きな声で一打毎に言って、朝また暗き時に家の周囲及び畑等を打って回る行事。「モグウ」がその音に驚き退散するとかで、昔から行なわれていた。戦争により中断していたのを盛り返してみた。

弾力性のある女竹を利用し、竹の先端の枝と藁を組み合わせ、小縄で巻き、地面に当るところが四十cm位のものを作る。済んだものは中程を折り曲げ、柿の木や桃の木・梅の木に掛けておけば豊作となると伝えられている。

広川町に来ると至る処にもぐら打が枝にさがっている。

サギツチヨ一・ホケンギョウ

正月の十五日、生竹・枯木・藁を集め、直径二m、高さ三m〜四m位を各隣組毎に作り、朝早くとか夕方日暮れに水田等の空地に立て、燃やす。それを取り囲んで正月に使用した門松や飾物・餅を焼いて無病息災を祈る行事。

以上の昔あった行事を盛り返し、子供会に計ったところ、「もぐら打は十

五日成人の日が学校の休みだから、その日にしてほしい。」との申し出が多かったが、十四日という日は替えられない、十五日にすれば十四日に行った所の（モグウ）が全部集まって来るぞ、と言って普通りの十四日に決定、前日の十三日の午後、各地の公民館前の広場等にて作る事を決めた。

当日になると、子供よりも先に男親達が集まり竹・藁の材料を満載して集まって来た。子供はそつちのけで親達が生懸命を作る。一人で五本も六本も作る。

今日、人を集める事は困難で苦勞する。特に、男親達を集める事は頗る困難である。しかし今回、子供会で、子供達との話し合いで計画した中で、このような男親の積極的参加は、普通、出不足金（欠席の場合の過意金）を取らねば集まらない男親達に対して、以外という外ない。親を集めるには子供を利用す

るのが一番であると痛感した次第。

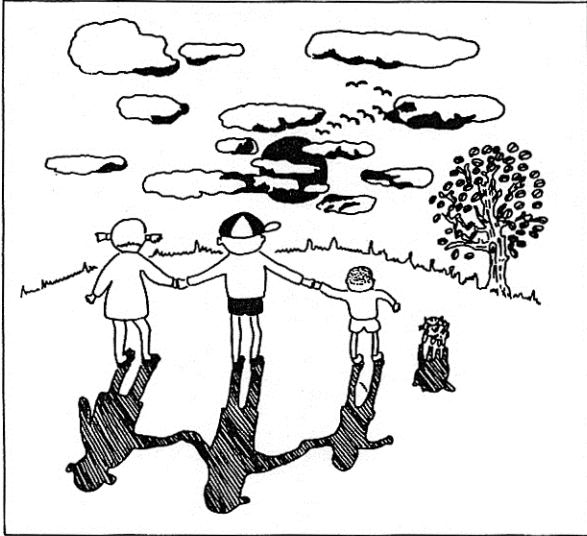
おみこし作り

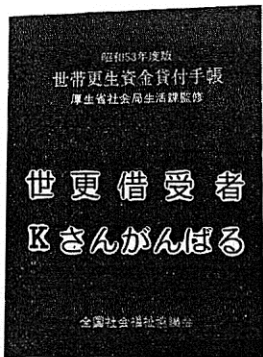
青年団との話し合いで、氏神の（おみこし）作りを計画した。市街地の大神社の様なおみこしは、田舎の氏神にはないのに目をつけ、青年団の事業計画に入れた。昔は祭礼当日、子供相撲千度詣り、千灯明等あったが、戦後立ち消えとなり、晩余興として老人の演出が残された行事の一つになった。これも数年前より素人演芸会となって、子供会・青年団・婦人会・老人会等に協力を求め、プログラムを作って一晩楽しむ事になっており、昼間の行事がないので、今回（おみこし）ワッ

ィイ//の掛声で子供会に前縄を引かせ、区域内を回ること計画。先づ、青年団員に産業大建築科の学生を棟梁として設計を作り、団員は、勤めや学校を終え、夕食を噛みかみ駆けつけながら作業分担して、一心不乱製作に取り組んだ。二週間の日時を要する後で点検すると、さい銭箱がないことがわかり更に作る。九月一日祭礼にやっとなに合った。

当日午後一時、神社でお払いを受け出発、子供七十名が先縄を引く。重さ九十五kgのおみこしは、青年団のみでは続かず、消防団員も加わり区域内を回る。四辻では清水の先札を受け、待ち受けた氏子たちはおさい銭をあげる。一万円札などがある。団員は余興（昔は芸人を雇い八万円位の費用）の計画。舞台作り、案内状を配り、二十万円位のお花を貰い受ける。この寄付金が、青年団員の研修費となる。青年団の行事として四月に入退団式、七月、隣組対抗サ・ナポリソフトボール試合八月、盆踊大会、九月、神社余興、十月、町民体育会等、区の行事を一手に引き受け、自己の青年祭研修会と合せて盛り沢山の行事と取り組んでいる。おみこし行事は、祭礼気分を盛り上げ、大変よいことであり、継続するように、との区民の意見である。

（広川町社協 園田孝一）





昭和五十二年九月、頭の中から足先まで、真っ黒になった五十歳前後の男の人が、私の前に現われた。話を聞いてみると、世帯更生資金を借りたいと云うことであつた。そのKさんは妻と二人の子供（十歳と八歳の女の子）の四人暮らしで、現在公民館の管理人と云うことで、公民館の一部に借家住いしている、とのことであつた。Kさんは以前従業員十五人くらい使って配管工事をしていたが、当時のオイルショックの影響で集金の未収、申請業者の倒産と相次ぎ、材料代・人夫費等の支払いのために家屋敷を抵当に入れあげくの果てには、家屋敷の明渡しになつたそうである。それからは以前取引きのあつた某工業に勤務し生計を立てているが、生活費だけで精一杯である。それでどうしても、もう一度自分の材料で仕事をして自立更生したい。と願っているとのことであつた。民生委員さんに意見を聞いてみると「真面目で頑張り屋であり、自立更生を切に願っているようであり是非貸付けて頂き、更生させたい」と云われ、申請す

ることとなつた。その資金の貸付決定通知が届き、資金の交付となり、本当に喜んで、「是非ともこの資金で更生できるよう頑張ります」と更生意欲が充ちあふれていた。やがて償還月になり、第一回目の償還金は償還月通り持参される。その後の経過を聞いてみると「少しづつ仕事も増え、頑張っている」とのことであつた。順調に二、三ヶ月が過ぎ、四ヶ月目にはいつた時電話で、「どうしても仕事が忙しく持参出来ないので来月に一緒にいいか」との連絡があつた。しかし償還方法が月賦ということなので、出来るだけ月毎に納入してもらうよう伝えた。後で思うに仕事が忙しいということ聞き更生されているのだと嬉しく思つた。六ヶ月目の償還に来られたとき、「現在は従業員を三名ほど使つて、長崎・佐賀の方にも出かけており、毎日仕事に追われています。世帯更生資金を借ることが出来て本当によかつた」と笑顔で話された。この言葉を聞いて私自身世帯更生資金貸付のお世話が出来て嬉しく思っています。ふと気付いた事に六ヶ月目のKさんも最初に來られた時と同じように、頭の中から足の先まで真っ黒であつた。私は、世帯更生資金が経済的・精神的に大きな支えとなつているのだ、と新たに思いおこし、これからも本当に自立更生に意欲を燃やしている世帯の方々に、貸付のお世話をして行きたいと思つています。

(八女市社協 山口友吉)

専門員連絡会

今年度の計画

社協専門員連絡協議会の五十四年度分の事業は、①十一月十八日(予定)に市町村社協職員交流会を考へていきます。実行委員会方式で具体的企画はにづめますが、前半はレクリエーションで、ラムネ飲み競争、ゲートボール大会・バレーボール大会などブロック別対抗や全体ゲームをし、後半は資質向

上のミニ講演や交流会を催すはずで、②機関紙「まなこ」は今号を含めて三回の発行を予定。次回は再びミス社協も編集するはずで、③ブロック別交流も奨励しますし、他県内の社協との合同視察なども行なうはずで、課題としては、専門員のみでなく、社協職員の機能効果をはかることや親睦をも育んでいく必要があります。又、県社協の方とも相談しながら、社協職員の共済制度・福利厚生もはかる研究にもとりくんでいかねばと考えています。

BOOKあらかると

灰谷健次郎、この名前を聞いたら、ご存知の方は「ああ、あの作者か」とピンとくる方も多しと思ひます。また名前ではわからない人も『兎の眼』の作者だといえはわかるように、この作品はベストセラーになり、そして、映画化もされました。

この作品は児童向けの本ではあるがこういう本を読んでいると、子供たちのしあわせを願う者としては、もっと子供自身が考へていることを、ハッキリとらえなければならぬと思ひます。この他にも灰谷健次郎の作品はかり数冊読み、もっと多くの作品を読みたいと思つています。

これらの作品のもとになっていると

思われるのは、『せんせいけらいになれ』の中でもあるが昔、小学校の先生をしていた

- ときのいろいろなことがこういつた作品を生み出したものと思ひます。
- 次に作品名を少しあげておきます。
- 『兎の眼』『太陽の子』『せんせいけらいになれ』……理論社
- 『マコチン』『マコチンとマコタン』『ひとりぼっちの動物園』

……あかね書房
この他にも作品がありますので、ぜひ読んでください。本は買って読むのだと思ひます。

(県社協 松尾 明)





前会長 紫原氏

福岡県の専門員連絡会が発足して九年が経過しました。

今年三月に、専門員連絡会会長を勇退された、紫原正行会長(六十七才)は三代目で、約五年間お世話をしていただきました。

会長は名前のごとく、いつも正しい行いをされる人で、また、いつもほほえみのある人であり、私たち専門員のよき相談相手でもあり

おねがいくまろすうさん



新会長 松尾氏

黒くて太いフチのメガネが貴兄にはよく似合います。そのメガネが鼻先にズリ下る時、決まって貴兄の腹の中には、多量のアルコールが注入されています。話が好きな貴兄は、アルコールが入ると、さらに舌の回転数とボリュームが増し、誰彼となくひつつかまえて、社会福祉の何たるかを、社協のあるべき道のしるべを綿々と講釈したまふのです。

り、親父的存在の人でありました。会長は、行政界を歩んでこられた人で昭和四十六年六月に、筑後市社協に専門員として就職、以後事務局長を兼務されることもしばしばありました。

行政では、環境衛生事業にたずさわることが永く、社協では、この経験を十二分に發揮し、住みよい町、美しい生活環境づくりに、努力するとともに地域住民ひとりひとりが、活動に参加することで、自分自身もこの町に住んでよかつたと思われる社協活動に、人間として、これから自分がすすむ道は「これだ」と、生きがいを見出し、最後の務めと思い、市民ひとりひとりの幸せを守り高める活動に、精魂をかた付けてこられた方でありました。

ありがたいやら悲しいやら、貴兄の情熱にたちうちできず、すぐごと肩を並べて退散する我々のふがいなさにさすがに、最近はず床につくのが早くなりましたね。ゴメンナサイ。航空機疑惑のナゾよりも深く、平和台球場よりも広い貴兄の才能は私たち皆のせん望のまです。

「愛は地球を救う」のだそうです。奥様や子どもさんの半分で結構ですから、私たち県下の専門員にも愛の手を。愛は専門員を救う!?

まぶしい夏がそこまでできています。燃えろ、セイジローノ (提供は資生堂でした)

(直方市社協 高石伸人)

また、地域においては各町内会・公民館ごとに、小地域社協の結成に努力され、市民とともに地域福祉向上を推進されました。

会長に趣味はと尋ねたとき「私は仕事、いや、社協活動が趣味でしょう」と、答えられ、頭のさがる思いをしたこともあります。

これからも社協活動の先駆者として助言をお願いするともに、「いつまでもお元気でありますように」、心からお祈りします。

(稲築町社協 内田文人)

福祉活動専門員の動向

このたびの専門員の新旧交替は次のようになっています。

- 筑後市 紫原 正行(局長専任) 規
- 中山 陽一(新) 規
- 八女市 山口 友吉(退) 職
- 牛島 務(新) 規
- 筑紫野市 日永田宗亮(局長専任) 規
- 宮田 義明(新) 規
- 春日市 森山 俊郎(退) 職
- 河津 二男(異) 動
- 桂川町 安藤 勇二(役場へ) 規
- 久保 康弘(新) 規
- 三輪町 山本 晴人(退) 職
- 北原 暁(新) 規
- 夜須町 砥板 一人(退) 職
- 手柴 五男(新) 規
- 今回新しく法人化しました。
- 田主丸町 高尾 直樹(新) 規

編集後記

いろいろ御多忙であつたらうと推察される前編集委員会のあとを受けて、今度新発足した編集委員会が、迅速にお届けした第十号。ここに、新メンバーの抱負とボヤキを紹介しつつよろしくお願ひします。

▼何しろこの五月に専門員なりたての私ですが、何でも経験と思ひこの編集に取りくみました。ところがやってみて大変。文章のよじれを直すのは至難の業でした。皆さん、原稿はわかりやすくお願ひします。(筑後市 中山)

▼福岡ブロックより推せんされた?、むしろ指名されたという言葉が適当かもしれない。前原町社協は未だ機関紙の発行もできず、従って未熟な編集委員であるが、この機にしっかりと先輩諸氏の御指導にあやかるつもりである。(前原町 藤井)

▼「まなこ」をまさか専門員のまなこで赤裸々に、身近な問題で浮き彫りにしていけば……。五年目になると社協の実態も大分わかり、多少老人臭くなりつつあるが、それでもまだ一ぱん若い俺。頑張ります。(大川市 永田)

▼以上の三氏に、新進の緒方氏(行橋市)と、私が編集委員です。この「まなこ」も近年は伏目がち。今年はせめて両眼をあけたいと思つています。なにしろ、三回分予算をとっていただくのですから。(飯塚市 石上)